



和元年も終わりつつある12月14日の日曜日、調布市の北西部に位置する都立武蔵野の森公園内にある北園修景池において、かいぼりが行われました。

かいぼりとは、従来、農閑期に用水路やため池の掃除や補修のため、水を抜いて干上がらせ、その間に管理作業を行うために行われていたものです。しかし、最近では、池の水を抜くことによって、生息する外来生物を駆除したり、池底を空気にさらすことにより底質環境を改善したりする事により、池の環境を良くし、在来生物を主とする日本本来の在来生態系を復元あるいは構築する目的で行われることも増えました。

今回のかいぼりでは、事前に講習を受けたボランティア十数名を中心に、水が抜かれた池に残された生き物を捕獲し、生物分類の専門家による仕分けと計数を行った後、外来生物は駆除、在来種はかいぼり期間中飼養した後に池に戻すこととなりました。

今回、最も多く見つかった生き物は、在来種である魚類のモツゴでした。このほかに、貴重種であるミナミメダカやドジョウも見つかりました。外来種では、コイやカワリヌマエビ属アメリカザリガニ、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ、クサガメに加え、明らかにペットが捨てられたものと思われるカブトニオイガメも確認されました。なお、水生昆虫類は比較的豊富で、コシアキトンボやシオカラトンボ、ウチワヤンマなどのトンボ類の幼虫が6種類も見つかったほか、ヒメゲンゴロウなどの小型ゲンゴロウ類も見つかりました。調布市は、多摩川や野川、仙川といった流水は豊富ですが、池のような止水が非常に少なく、この池のような場所は、トンボ類の生息地としてもとても重要な役割を果たしています。

かいぼりが終わって、水が戻った後、どのように自然が復元していくのか、とても楽しみです。

(ELFIN代表 石川)

都立武蔵野の森公園

12月14日

日

かい
ぼり

kaibori



カブトニオイガメ



獲れた生物を展示

ヒメゲンゴロウ

ゲンゴロウというからには調布では全く見られなくなっているあの3～4cmくらいの水生昆虫のゲンゴロウを思い浮かべる方も多いと思います。確かに仲間には違いないですが大きさは10mmくらいで日本の様々な水たまりにいるそうで、図鑑を見ると更にチビゲンゴロウという2mmくらいの仲間もいるとか。それでも水田の減少している地域では数も減っているのではないのでしょうか。こんな水生昆虫を見かけたらつぶさないでくださいね。(鍛冶)



都立武蔵野の森公園の北園修景池で

す

べての物が凍りつくような厳寒の中、朝日を受けて咲くロウバイは、まるで命の通わぬガラス細工か蠟細工のようで、花びらに指を触れると粉々に壊れてしまいそう。

花粉を運ぶ昆虫も冬籠りしている厳冬期に花を咲かせるこの花の魅力は、花の美しさもあるが、もう一つの魅力は甘い香りにある。一枝のロウバイに侘助ツバキを添えてみた。部屋の中に甘い香りが漂い、心得もない茶の一番を立ててみたくなった。

厳寒期に花を咲かせる蠟梅（ロウバイ）・玉梅（ハクバイ）・茶梅（サザンカ）・水仙（スイセン）を「雪中四友」（セツチュウシユウ）と呼んで、古くから冬の画材とされてきたが、近年これらの植物を植えた公園が各地で名所となつて、見学者で賑わっている。

ロウバイ科の植物には中国原産のロウバイ（*Cimonanthus*）属と北アメリカを原産とするクロ

花の履歴書

56

戸部英貞（絵・文）

ロウバイ（蠟梅） ロウバイ科



Cimonanthus praecox

バナロウバイ（*Sinocanthus*）属があり、それぞれに幾つかの園芸品種が知られている。

ロウバイの原種は花の中心部は暗紫色で、その周囲が黄色であるが、栽培されている多くは花全体が黄色いソシンロウバイ（素心蠟梅）や花弁の黄色が濃く、丸みのあるマンゲツロウバ

イ（満月蠟梅）が中心のようだ。

クロバナロウバイにもナツロウバイ、ニオイロウバイなどがあり、人々は香りのあるニオイロウバイの花をハンカチーフに包み、胸のポケットに入れておくそ

うだ。すれ違った人の胸元から、この甘い爽やかな香りが漂ってきたらどんなに素敵だろう。

ロウバイの名は原産地の中国名「臘梅（ラウメイ）」を日本語読みしたもので、半透明な艶のある花弁がまるで蠟細工のようであり、また旧暦の12月（臘月）に花を咲かせることに因んで名付けられたという。

調布水辺の楽校

【多摩川クリーン作戦&バッタ・イナゴとり】



2019年11月2日（晴れ）調布水辺の楽校の秋のイベント『多摩川クリーン作戦&バッタ・イナゴとり』を行いました。

台風被害で荒れてしまった河原での開催。「児童たちにも河原の状況を知ってもらいたい」といった思いがありました。

観察場所は、二カ領上川原堰から下流へ300mほどの範囲。実際に堰脇の河原も大きくえぐられたり、魚道脇のフェンスが壊れてしまったりと危険な部分があり、実施前の確認を十分に行つての開催でした。そして参加者にはマスクを配布して、土砂環境による安全面での配慮も行いました。

参加は市内11校（全20校中）から児童41名、保護者50名、スタッフ約20名。台風の影響か、少なめでしたがみんな元気に虫を追いかけていました。また、流木やゴミなど流れてきた状況の説明にも耳を傾けていました。そして植物の生命力の強さに感動もしました。（水辺の楽校サポーター池ノ内）



ハレシャギク



【当日採集・観察できた昆虫類・植物】

◆生き物：モンキチョウ、ツバメシジミ、ヒメアカタテハ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミ、モンシロチョウ、ショウリヨウバッタ、ショウリヨウバッタモドキ、オンブバッタ、トノサマバッタ、ヒナバッタ、クビキリギス、クサキリ、ササキリ類、キリギリス、オオカマキリ、コバネイナゴ、ハネナガイナゴ、ナナホシテントウ、アマガエル、カナヘビなど22種以上。

◆植物：セイバンモロコシ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、ヨモギ、ハルシャギク、オギ、ニセアカシア、アレチハナガサ、クズ、ムラサキツメクサ、メリケンガヤツリ、クコ、ヘラオオバコ、エノコログサ、オヒシバ、チカラシバ、マツヨイグサ、キカラスウリ、カントウタンポポなど約20種。

◆回収したゴミ：プラゴミ3袋、可燃ゴミ1袋、ペットボトル2袋。

事故もなく、無事終了したこととともに、安全で楽しめる河原に早く復旧してほしいものです。次回は1/18（土）にバードウォッチングを計画しています。

入間・樹林の会

■10月20日回「曇りのち晴れ」

参加11名

植生調査を全員で行った。思ったより台風19号の影響が少なかった。2018年の台風の倒木の処理をようやく市の方でもしてもらい、大木は切られていた。明るくなり、他の作業ができるのでよかった。



クサギの実

ジョロウグモ

■11月17日回「晴れ」参加10名

12月1日の崖線ウオークのための通路整備、サネカズラバスター、9月に切った竹を使って坂道の水止めを行った。ツバキの森のピンクのサザンカが良く咲き目立ってきた。シラカシの大木が倒れて陽の光が入るようになったから。花の楽しみができた。よかった。



ツワブキ



サザンカ



水止め竹補修

ヤツデ

■12月15日回「晴れ」参加8名

サネカズラバスターの続きと、ツバキの森の階段づくり、落ち葉だめ周辺の整備などを行った。暖かく風がない日のせいか、落葉し枝がみえてきたので野鳥観察がよくできた。双眼鏡を持ってくると良かった。(安部)



ムラサキシキブの実



マンリョウの実

カニ山の会

■10月12日回「台風のため中止」

■11月9日回「晴れ」参加12名

東樹林下段のササ刈り・アオキ枝払い、に緑の基本計画に関わる事業者のお二人が参加。午後は事業者の企画運営による11/6ワイクシヨップへの意見出しを行った。その後カニ山の組織改編について話し合い。小島さんが長年(約15年)代表を続けていたが、多忙になることをきつ

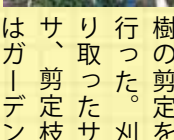
かけに今後は役割分担をするのととし当面の分担を決めた。



道具置き場で

■12月17日回「晴れ」参加7名

今年最後の作業。東樹林上段の落枝整理とササ刈りを行う事にした。落ち葉かきをしながら落ち葉溜め・伐採木の廃材集積場の整備、そして常緑樹の剪定を行った。刈り取ったササ、剪定枝はガーデンバックで8個分くらい。剪定枝の大枝3本もあり野草園前まで降ろすのは過負荷と判断し以前指示された、北側駐車場奥に集積した。(後日緑と公園課に連絡)すばらしい紅葉の中の作業であったが、先日のカニ山の保全管理計画を聞いて、ボランティアとの協働で保全管理をおこなっていきなり、廃棄方法については今後のやり方をきちんと提示して欲しいと感じた。(瀬本)



若葉緑地の会

■10月13日回「晴れ」参加4名

前夜、大型で強い台風19号が伊豆半島に上陸。12日の雨量は289ミリを記録(府中)。若葉町の緑地では、9月の15号台風ほど倒木や枝葉落下はひどくなかったが、表土が露出している第一緑地では、崖下の住宅地との境界の土留めを越えかねない泥流の跡があった。坂道に積もった枝葉を除去して落葉溜めに入れる。



泥流に流されて崖下に積もった枝葉

■11月10日回「晴れ」参加5名
19号台風襲来直後の前回作業日は気づかなかつたが、幹が途中で折れているスギを発見し、伐採。夏の間に伸びた下草を住宅との隣接部を中心に刈る。正午の気温は17度と汗ばむほどで、蚊取り線香をつけての作業。



幹が折れたスギ



11月なのに蚊取り線香

■12月8日回「晴れ」参加5名

「青空広場」(春のスミレ群落が見事)に日陰をつくるようになったシラカシの大枝を伐る。その材を使って散策路の階段を修理。紅葉が盛りに。最低気温が8度以下になると紅葉が進むとのこと。11月は暖かい日が多かったが、26日からこの日までの平均最低気温は3度ほど(府中)でこの朝、初めて氷点下。一気に秋が深まった感じ。(大村)



散策路階段の修理



シラカシの大枝を落とす

若葉の森3・1会

■10月6日回「雨のち曇り」

参加5名

雨が残る中、緊急度の高い道路や隣地への越境樹木の伐採作業を優先。第1緑地は、西側でシラカシ、六別坂でイヌシデを。第2緑地は、北側でアカメガシワなど、大坂でシラカシを。竹製保護柵の補強。

■11月3日回「曇りのち雨」参加7名

第1緑地では、東側土留め杭打ち(子ども遊びと土の流出防止の両立)、中央通路階段補修、コンポスト柵補修、落葉掻き等。第2緑地では、階段補修、竹伐採。



中央通路階段補修杭打ち

竹柵補強の完成

■12月1日回「曇り」参加1名

がいせんウオーク協力6名。一人でできる作業、陽光と富士山の眺望確保のための枝打ちと落葉掻きを行った。(NOK)



イヌシデ枝打ち後

凸凹森の会は雨天のため活動はありませんでした。

凸凹森の会



若葉の森で自然素材のクラフト

若葉の森では、クラフト用に沢山の自然素材を用意しましたが、遊んでいく方が少なく残念でした。企画の伝

昨年は申し込みが少なめでしたが、2回目となる今回は事前の締切日前に定員の100名に達し、申し訳なく思いながらその時点で受付を終了しました。市内の国分寺崖線と言われる地形を歩くのは、未経験のコースだった方が殆どでしたが、「何故ここに雑木林があるの?」なぜこのあたりにこんな急坂があるの?」地形や歴史、自然のようすを知るきっかけになったと思います。



仙川駅前公園で受付



コゲラ

先日、ふと庭を見ると桜（東海桜）の幹にコゲラが来ている。虫でも探しているのか時々幹をつつきながら垂直になってチョンチョンと幹を上下している。その様子は逆光で見えにくい時でもほぼ見間違えることが無い。もう1羽も別の庭木をチョンチョンと渡り歩いている。ここ（御塔坂近く）に住むようになって初めての訪問だと思う。キツツキという山の中を想像するが、案外街路樹や住宅の庭にあらわれることも多いという。日本のキツツキでは一番小さい種類で、昆虫の他木の実なども食べる雑食性だそう。メジロと同じくつがいで飛び回るところが好感度大のかわいい小鳥。(NK)



カニ山ニゴール! マシュマロ焼きを楽しむ



つつじが丘公園チェックポイントでスタンプを押す

え方などに課題が残りました。その先つつじが丘公園でのおもてなし休憩を経て最後のカニ山へ。カニ山のカマドでは焼き芋・スー・マシュマロ焼きとおおいに楽しんで下さったようで、アンケートでも「全部楽しかった!」ばかり。これをきっかけに崖線樹林の保全に関わって下さる方が一人でも現れることを期待します!

市民発 ちょうふの自然だより

編集後記

2000年に設立された環境市民懇談会において環境政策課と協働発行されていた「ニュースレター」を引き継ぐ形で、2009年からは市民発として自然だよりの発行が続いてきましたが、今回が最後となります。事務局二人で編集していたこともありましたが、次第に一人体制になりマンネリ? 時代の流れ? 読者がいなくなってきたように感じられ、とうとう終了することになりました。たくさんの方に原稿を書いていただき感謝! 昆虫が劇的に減少していると言われる今、農地等の緑地も減少の一途ですが、多摩川・野川、そして国分寺崖線と変化のある自然をこれからも大切に守っていききたいと思います。長い間ありがとうございました。(NK)

雑木林保全活動のスケジュール

入間・樹林の会

毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 1月19日(日) 9:00~14:00 植生調査、新年会
- 2月16日(日) 9:30~12:30 保全活動
- 3月1日(日) 9:30~12:00 野鳥観察会
- 3月15日(日) 9:30~12:30 保全活動

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 1月11日(土) 10:00~15:00 安全祈願
- 2月8日(土) 10:00~15:00
- 3月14日(土) 10:00~15:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2月9日(日) 9:30~12:00
- 3月8日(日) 9:30~12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2月2日(日) 9:30~12:00
- 3月1日(日) 9:30~12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。

- 1月26日(日) 9:30~11:30
- 2月23日(土) 9:30~11:30
- 3月29日(日) 9:30~11:30

※上の5団体の保全活動問合せは、調布市役所「緑と公園課」Tel.042-481-7083へ

◆「ちょうふの自然だより」は、2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。

調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

◆本誌は、地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)、おぎもと内科クリニックなどに置いています。

◆会員募集! 年会費 ●会員:1000円/ ●サポーター会員:500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問い合わせには当方の返信が届かない場合があります。

この「ちょうふの自然だより」は、ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。http://chofu-kankyo-shimin.org